



食育推進

市内初の「栄養教諭」

桜丘小学校

今年4月、桜丘小学校に、市内初めての栄養教諭が誕生しました。

4月21日、栄養教諭の小野先生と担任の先生による「食育カルタ」を使った授業が行われました。



子どもたちは、カルタ取りを楽しみながら、その合間に、小野先生による「フードや生活

近年、「食育」の重要性が叫ばれています。平成17年には食育基本法が施行されました。小野先生は、桜丘小学校の調理指導などの給食管理の他、食べ物への興味関心やバランスの良い食生活など、食に関する指導を計画的に進めています。また、「給食だより」

などを通して、家庭にも発信しています。さらには、近隣の小学校とネットワークを作り、教職員に食育について指導をして食育を推進しています。また、中学校で家庭科の授業を行うことも予定しています。



桜丘小学校では、教職員の食育への意識が今まで以上に高まっているそうです。小野先生は、「学校から家庭、そして地域への働きかけをいかに行うかということが課題です。」と話していました。



関東大会初優勝！ 全国大会出場

つきみ野中学校野球部

夏の県中学校総合体育大会、軟式野球の部は、大和市の中学校同士の決勝戦でした。優勝した、つきみ野中学校と準優勝の上和田中学校は、関東中学校軟式野球大会に両校そろって出場しました。

つきみ野中学校は、快進撃を続け、準々決勝戦で埼玉県代表の飯能市立飯能中学校に1対0で、準決勝戦で栃木県代表の上三川町立上三川中学校に4対0で勝利しました。

決勝戦は、群馬県代表の前橋市立第一中学校との対戦。0対0で特別延長戦となり、3対2で制し関東大会2度目の出場での初頂点に立ちました。



同校は、19日から岡山県倉敷市で行われた第32回全国中学校軟式野球大会に初出場しました。一回戦はシードでしたが、二回戦で青森県代表の十和田市立三本木中学校に0対5で惜しくも敗れてしまいました。



主将の宮本君は、「このチームになってからの目標だった全国大会に行けてうれしかった。このチームは学年問わずとも仲が良い。このチームワークが全国大会出場への原動力になったのだと思う。お世話になった方々に感謝し、これから高校野球に向けてスタートしたい。」と話していました。

人権・福祉を学ぶ

「ふれあい体験学習」

鶴間中学校

鶴間中学校では一年生が、6・7月を福祉の学習月間としています。

7月8日、他者への関わりや思いやりを中心に据え、透析を要する腎臓病患者への理解を深め、自分たちができることについて考えることを目的に、「福祉講話」が行われました。

講師の先生方は、NPO法人「大和市腎友会」理事長の樋口さんはじめ8人です。

腎臓病患者とボランティアの二人一組が各クラスを訪問し、患者の日々の生活や透析について、話されました。

「透析は機械を使い1回4時間、週3回安静にして行わなければならない。」と聞くのと、その苦労について生徒に驚きの表情がみられました。

講師の一人は、「中学生のころは体調が悪く勉強ができなかった。その後、透析が安定してくると、この時間を讀書に充て、今では心理学を学



びに大学に通っています。数十年前では亡くなっていたもおかしくない年齢で、このような充実した生活を送れることに感謝して、今を一生懸命生きています。皆さんも一分、一秒を大事に生きてほしい。」とメッセージをくださいました。

また、樋口理事長は、「病気の人の避けるのではなく、地域にそのような人がいるということを知り、手を差し伸べてほしい。」と中学生にもできることがあると強調していました。

講話を聞いた生徒は、

福祉体験で育む思いやりの心

鶴間中学校・南林間中学校

「腕を触らせてもらったとき、血流がジリジリと伝わってきて、どんなに苦労しているかわかりました。この経験をもとに、もし、近くに助けを求めている人がいたら自分のできることをやりたいです。」と話していました。

障がい者スポーツから迫る

福祉体験学習

南林間中学校

南林間中学校では、一年生が、総合的な学習の時間の学年テーマを「人と人のかかわり」とし、その一環として福祉を取り上げています。

6月22日、「車いすバスケットボール体験学習」が実施されました。これは、車いすバスケットボール体験や選手の体験談を通じて、社会福祉への理解

と関心を高めることを目的に、日本パラリンピックキャラバン実行委員会が開催しているものです。

初めに3人の車いすバスケットボール選手から、障がいをもつに至った経緯や、スポーツをする意義をお話していただきました。

その後、生徒は競技用の車いすの試乗体験をしました。

日常生活のための車いすと競技用の車いすは動きが全然違います。体験した生徒は、「移動しながらのドリブルなんてありえない！まっすぐ進むことだけでも結構難しい。」と周囲に伝えていました。

いよいよ車いすバスケットボールに挑戦です。車いすで移動しながらのパスやシュー

トは至難の技でした。

授業後、生徒は、「障がいのある人がどのようなことを思っているのかわかりました。3選手の話を聞いて一番心に残った言葉は、「できないことを数えるよりもできることを数えよう」です。これからは区別するのではなく、みんなと同じように接して、その中でちょっとした優しさでその人が過ごしやすい環境が作ればいいなあと思いました。」と感想を書いていました。



六年生を中心とした 異学年との関わり

南林間小学校

南林間小学校では、異学年との関わりを大切に活動に学校全体で取り組んでいます。

六年生1人に五年生以下、各学年の児童1〜2人ずつで縦割りの班編成を組み、年間を通して活動しています。

児童会行事の「なかよし集会」や「南林小スタンプラリー」では、遊びを通してふれあうことにより、お互いの連帯感を高め、友だちの輪を広げることがめあてに、全児童が参加して行われています。

1〜六年生が一緒に給食を食べる「交歓給食」も縦割り活動の一環として行われ、楽しいひとときを過ごしています。



4月27日、今年度一回目の「なかよし集会」が行われました。自己紹介

の後、相談して遊びを決め、鬼ごっこやドッジボール、なわとびなどで遊びました。最後に全児童で、20年以上の歴史がある「シャボン玉とばし」を行いました。みんなの思いを乗せた無数のシャボン玉が空に舞いました。



集会後、六年生の教室では、「どうなるか不安だったが、みんなが楽しかったと言ってくれてよかった。」

「最後に集まるのが大変だった。次の時は集合場所を決めようと思う。」と感想を話していました。

泉の森から学ぼう

草柳小学校

草柳小学校の四年生は、毎年、泉の森へ引地川をホームグラウンドとし、年間を通して野外学習に取り組んでいます。

これは、自分の身の回りの自然を見つめ、体験的な活動を通して子どもたちの探究心や自ら学ぶ意識を育てることを目的としています。

7月1日には、引地川公園ふれあいの森の親水広場で、指導講師に市環境農政部と自然観察センターしらかしの家の職員を招き、「水質調査」「水生生物調査」「自然観察」が行われました。

「水質調査」では、川の水・水道水・キャップ一杯のスポーツドリンクの入った水道水の三種類の水を比較しました。「水生生物調査」では川底の石を裏返し、トレイにのせ、現れる水生生物を図鑑で調べました。「自然観察」では、木の根もとの地面にあった穴は、セミの幼虫が成虫

になるために出てきた穴ということを知り、穴を夢中でぞき込んだり、視線を木の枝に移し、セミの抜け殻を見つけたっていました。

調査を終えた児童は、「川底の石の裏にも小さな生物がいるんだ。いろいろな生き物がいる引地川にしたい。」

「ちよっとのジュースで、すいぶん水が汚れてしまっんだ。飲み残したら簡単に流してはいけないと感じた。」など話していました。



担当した先生は、「泉の森は自然の宝庫。四季折々の自然にふれ、感動できる体験活動をさせていきたい。活動を通して、まだまだ私たちの身の回りには自然があることを感じ、自然に興味をもつきっかけになってくれればと思っています。そして、大和の自然を愛する子どもたちに育ててほしい。」と思いを語ってくれました。

春には、樹木に聴診器をあてて、音を聞いた子どもたち。秋や冬には、木の実や野鳥、動植物の冬越しなどを題材に体験的な活動を計画しているそうです。





【おらが学校】

伝え合おう 分かり合おう

大和市立大野原小学校

本校は、昭和51年に開校し、今年度で35年目になります。すでに6月5日に第35回運動会を、無事終えることができました。これもひとえに地域の方々や保護者の皆様の温かいご支援ご協力のたまものと考えております。

本校では「心身共に健康で人間性豊かな子どもの育成」を目指しています。ここ6年間は、学習面では「伝え合おう 分かり合おう」、生活面では「笑顔であいさつ大野原」をテーマとして、研究を続けています。本校の取り組みとその成果の一端を、紹介します。

「伝え合おう」

「分かり合おう」

運動会の表現活動では毎年「旗体操」「ボール運動」「民舞」「組体操」等が行われます。

教職員の熱い指導のもと、子どもたち同士で励まし合ったり教え合ったりして取り組んでいます。地域の方々から、「子どもたちの頑張りがすばらしい」とのお言葉をいただきました。

このような共通体験や克服体験が、子どもたちの大きな成長に結びついていると思います。



国際教室では…

本校にも多くの外国籍児童

が在籍しています。国際教室が設置され2年目になります。が、子どもたちの勉強のみならず、心の成長に大きな役割を果たしています。学校の様子をよりわかっていたくため、保護者同士の交流会も計画しています。

図書室にウエルカム

市の学校図書館施設整備事業ウエルカムプランにより、図書室整備が進みつつあります。ボランティアの方々による読み聞かせは、本の楽しさやおもしろさを知る本好きの子どもたちの育成に、一役かかっていただいています。

笑顔であいさつ大野原 交通安全指導であいさつも

もう5年以上もの間、交通量の激しい時間帯に子どもたちを見守ってくださる方々がいます。本当にありがたいと思います。朝のあいさつにもご協力していただいています。

あいさつや交通安全は、学校だけの指導では難しさがあります。子どもを取り巻く大人が率先したいものです。

大空におおむく

「JUSSEI」

50 旗

大和小学校

地域とともに季節の風物を

4月23日、新緑薫る大和小学校校庭の空に、赤や青、黒、橙など色とりどりの「このぼり」約50旗(りゅう)が悠々と泳ぎました。

近年、屋根より高い「このぼり」の風景が減る中、子どもたちの成長を願う日本の伝統文化を継承しようと、平成17年に、PTAが家庭や地域で不用となった「このぼり」の寄附を呼びかけて始めました。今年は3旗の寄附がありました。

この日の放課後、PTAの方約30人が、大きいものから順番にロープに「このぼり」をくくりつけました。かなりの重さになりますが、先

生方の協力の下、校舎屋上から夜間照明灯の支柱に安全に配慮してしっかりとロープを張り、1時間程かけて飾りました。子どもの背丈程のものから5m近い大きなものまであります。中には土佐から来たという珍しい「かつおのぼり」もあるそうです。



大和小学校の恒例行事として、さらには地域の季節の風物として、児童をはじめ多くの方が毎年楽しみにしています。

「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。気軽に読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。